

聖路加国際大学 第5回外部評価委員会 報告書

日時：2024年9月19日（木）14：00～15：45

場所：聖路加国際大学本館1階大会議室

外部評価委員会構成員〔出席〕 小山 眞理子（日本赤十字広島看護大学 名誉学長）

島袋 香子（北里大学 前学長）

曾根 智史（国立保健医療科学院 院長）

福井 トシ子（国際医療福祉大学大学院 副大学院長）*Zoom参加

自己評価委員会構成員〔出席〕 堀内成子学長、亀井智子看護学部長、吉田俊子看護学研究科長、

西信雄公衆衛生学研究科長、小林京子教務部長（看護）、

大出幸子教務部長（公衆衛生）、佐居由美学生支援部長（看護）、

小山田恭子学術情報部長、森慎一郎研究管理部長、

ギルモア スチュアート教授（公衆衛生）、歌川光一准教授（看護）

青木眞晴大学事務部長、高鳥直人マネジャー（大学事務部）、

岡林史朋子シニア・アシスタントマネジャー（大学事務課）（公衆衛生）、

本郷一真アシスタントマネジャー（大学事務課）（看護）

武藤賢一（IR推進室）

<委員会事務局> 関加織、宮下梓織

〔欠席〕 渡瀬 博俊（東京都中央区保健所長）、山田雅子看護リカレント教育部長、

五十嵐ゆかり国際・地域連携部長

資料： 聖路加国際大学第5回外部評価委員会資料 2023年度事業報告書

【1】開会

定刻どおり第5回外部評価委員会を開会した。

【2】出席者紹介

堀内学長より外部評価委員会および自己評価委員会の出席者が紹介された。曾根委員が委員長に指名され、就任した。欠席の渡瀬委員（中央区保健所長）には後日、訪問面談を予定していることを報告した。

【3】議題

近況報告

初めに堀内学長より、大学の近況報告があり、今年度5年ぶりの開催となった新入生オリエンテーションセミナー、各種認証評価への対応、看護学部カリキュラム点検活動、また堀内学長の学長再選と看護学部長、看護学研究科長の交代について説明、紹介を行った。

1. 改善報告（学長 堀内 成子）

（1）第4回外部評価委員会の点検結果・改善報告（CAPDo）

堀内学長より、昨年度の第4回外部評価委員会での指摘事項に関する取り組み、改善活動を報告した。

2. 各部門の取り組みと課題

(1) 看護学部

➤ 入試について (看護学部長 亀井 智子)

入試選抜の方法、また広報に関して行っている取り組み、改善案の検討について報告し、外部委員より指定校推薦に関連し、指定校の進路指導教員との連携に関する助言があった。

➤ 国家試験対策について (看護学部長 亀井 智子)

今年度より国家試験対策強化プロジェクト (国対強) を立ち上げ、学部生向けに国家試験対策支援を強化していることを報告し、学生委員の新設やアドバイザー教員との面談、成績分析結果の共有等を行っていることを説明した。

➤ GPA について (教務部長 小林 京子)

GPA 値を分析し、国家試験対策や今後の看護学力向上に向けた教育への活用方法について検討を行っていることを報告した。GPA 値を進級や学生面談を通じた学生支援に活用することを予定している。

外部委員より学業不振と私生活の関連性と、アプローチ方法について質問があった。アドバイザー教員制度や健康管理室を活用し、必要に応じて心理士や同法人内の聖路加国際病院の医師へ繋げる対応を行っていることを説明した。

(2) 看護学研究科 (看護学研究科長 吉田 俊子)

➤ DNP コースと NP コースについて

2020 年以降の博士課程 DNP コース入学者減少に伴い、昨年度より指定施設に対する推薦入試を開始し、多数の推薦があったことを報告した。また修士課程 NP コースは昨年度より検討を開始し、CNS を考慮した科目履修システムを含め、検討していることが報告された。

外部委員より NP コースの履修内容について助言をいただき、患者がタイムリーに医療行為を受けられるようにすることが大切であるとの意見をいただいた。

(3) 公衆衛生学研究科 (公衆衛生学研究科長 西 信雄)

➤ 看護学研究科と公衆衛生学研究科のプログラム連携について

看護学研究科保健師育成コース (2 年) 修了生が公衆衛生学研究科専門職学位課程の学位を短縮して取得することができる連携プログラムを検討中であることを報告し、履修単位に関連した課題について説明した。

➤ 専門職学位課程の秋期入学募集開始について

2025 年度より MPH でも 9 月入学を開始し、JICA 長期研修員や社会人学生が状況に応じた入学が選択できるようになることを説明した。

➤ 米国公衆衛生教育協議会 (CEPH) 認証評価受審について

認証評価受審申請が本年 7 月に承認、受審大学として CEPH 公式ホームページに掲載されたことを報告し、正式認証には今後 3 年かかることを説明した。

➤ アジア太平洋公衆衛生学術連合 (APACPH) への加入について

本年 1 月に APACPH 理事会で加入が承認され、10 月の総会で加入証を授与される予定である。国際的認知度を上げ、広く入学生を受け入れることを目指す方針を説明した。

外部委員より、米国に比べ授業料が安価である国際的な MPH コースの存在意義は高く、アジアでは需要の高まりが予想されるとの意見があった。

(4) 看護リカレント教育部 (学長 堀内成子)

➤ 履修証明プログラムの新展開について

2025年度より「ケアイノベーションコース」を新規開講予定であること、認定看護師教育課程A課程は2026年度で閉講予定であることを報告した。

外部委員よりIT等の活用を学べるケアイノベーションは魅力あるコースであるとの評価をいただいた。

3. その他、部門報告

(1) 学生支援部 (学生支援部長 佐居 由美)

➤ 脱コロナ支援について

学生の課外活動をコロナ前の状況に戻すべく、自治会活動、選挙管理委員会活動、白楊祭(学園祭)活動の支援を行っていることを報告し、現在の課題を説明した。

(2) 学術情報部 (学術情報部長 小山田 恭子)

➤ 学術情報サービスの提供について

法人内の予算削減に伴い、順次資料購読を中止している。一方でRapidILLの活用を検討していることを報告した。

(3) 国際・地域連携部 (学長 堀内成子)

➤ 学生国際奨学金の運用について

海外渡航支援、留学生の受け入れ支援を行っている学生国際奨学金について見直しを行ったことを報告し、受給機会の均一化を目的に制限を設け、幅広い学生の海外研修参加を促すと説明した。

➤ People Centered Care (PCC)の活動について

聖路加健康ナビスポットるかなびでは、30を超える看護相談及び中央区との連携プログラムを含む健康支援事業を展開し、市民と学生を含めた医療従事者が関わられるよう取り組んでいることが報告された。

外部委員より、学生支援部の報告での課題に関連し、課題解決のため、学生が地域連携室の活動に参加することについて助言があった。

(4) 研究管理部 (研究管理部長 森 慎一郎)

➤ 研究支援の状況について

研究管理部で行っている研究支援活動を説明し、採択率を重視して活動、高水準が維持できていることを報告した。また寄付金の一部を研究への支援に充足するプログラムを発足し、法人全体で研究開発に従事していることを説明した。

4. その他

外部委員より、学業成績と入試選抜の関連性について質問があり、成績の傾向やGPAとの関連について現在の状況を説明した。

【4】閉会

すべての議事が終了し、閉会した。次回は2025年度に開催を予定している。

以上